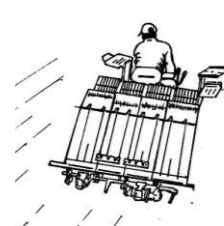
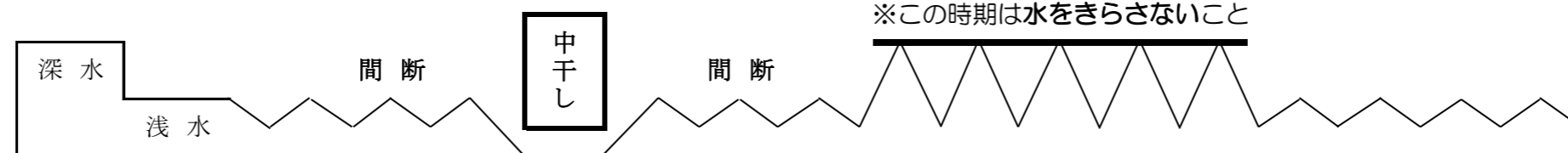


令和3年度水稻栽培講習会資料

〈適切な栽培管理により安全安心で、低コスト・高品質な一等米作りに努めましょう〉

【普通期】

JA東とくしま農業振興対策部

	5月	6月	7月	8月	9月																				
生育ステージ <small>キヌヒカリ 5/30植え 付け事例</small> 	植え付け 活着	有効分けつ期	有効分けつ終期 (出穂25日前) 幼穂形成期 (出穂15日前) 穂肥 7/14頃 減数分裂期 (出穂7日前) 穂ばらみ期 (出穂7日前)	出穂 8月4日頃 登熟期	成熟期																				
	管理のポイント(その1)			管理のポイント(その2)																					
	管理のポイント(その3)			【参考】品種特性表(天候によりかわることもある) <table border="1"> <thead> <tr> <th>品種名</th> <th>田植期</th> <th>幼穂形成期</th> <th>出穂期</th> <th>成熟期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>キヌヒカリ</td> <td>5月30日</td> <td>7月11日</td> <td>8月4日</td> <td>9月10日</td> </tr> <tr> <td>コシヒカリ</td> <td>5月10日</td> <td>7月3日</td> <td>7月26日</td> <td>8月30日</td> </tr> <tr> <td>あわみのり あきさかり</td> <td>6月5日</td> <td>7月19日</td> <td>8月12日</td> <td>9月16日</td> </tr> </tbody> </table>		品種名	田植期	幼穂形成期	出穂期	成熟期	キヌヒカリ	5月30日	7月11日	8月4日	9月10日	コシヒカリ	5月10日	7月3日	7月26日	8月30日	あわみのり あきさかり	6月5日	7月19日	8月12日	9月16日
品種名	田植期	幼穂形成期	出穂期	成熟期																					
キヌヒカリ	5月30日	7月11日	8月4日	9月10日																					
コシヒカリ	5月10日	7月3日	7月26日	8月30日																					
あわみのり あきさかり	6月5日	7月19日	8月12日	9月16日																					
水管理	 <p>※この時期は水をきらさないこと</p>																								
管理のポイント	管理のポイント(その1) 植え付け (1) 田植え時で大切なのは植え付け密度です。 苗を多く植え付けると、細い茎が混み合った株となり、過繁茂や生育後期の活力低下を招く。 栽植密度は坪当たり50株以下、(30cm×22~23cm以上) 1株植付本数5本程度とする。 茎の充実には疎植が基本です。 (2) 補植用の苗はいもち病の発生原因になるので早めに片付けましょう。		管理のポイント(その2) 目標茎数確保 (1) 密植圃場においては目標茎数(20~25本/株)を確保するため15本程度の茎数になれば軽い中干しを行う。 中干しの日数は4~6日で田面に小さな亀裂が入る程度とし、終了後は浅水で間断灌水とする。 「足あと水」位になったら水を入れる間断灌水は、出穂まで続ける。 (2) 中干しの効果 ・土中の有害ガスを抜き、根痛みを防止する。 PK(中間)追肥の施用 (1) 出穂40日前に施用する。 根の発育を促進し、茎葉を硬くし、乳白未熟等の軽減を図り登熟を向上させる目的で行う。 (施肥例) 一発肥施用田 BBPK2号(20~40kg/10a) 元肥+穂肥体系田 苦土重焼リン(20~40kg/10a)		管理のポイント(その3) 穂肥の施用 (1) 一発肥料施用田では基本的に穂肥の必要はない。 (2) キヌヒカリ、あわみのり、あきさかりは出穂の21日前とする。 コシヒカリは、出穂の15日前とする。 (施肥例) BBNKC52号 10~15kg/10a BBみのり 10~15kg/10a おてがるくんNK10~15kg/10a <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 低コストおすすめ資材 苦土一番(総合ミネラル肥料) 40kg/10a 苦土・ケイ酸 粒状で撒きやすい肥料です </div>																				

雑 草 防 除	○初期除草剤 ・投げ込み剤 ゴウワンDLジャンボ 700g/10a (田植直後～9日) トップガンLジャンボ 250g/10a (田植後3～12日) <ホタルイに効果が高い> ・粒剤 シリウスターボ1キロ粒剤 1kg/10a (田植後5～12日) <藻類にも対応> エーワン1キロ粒剤 1kg/10a (田植後10～15日) <ホタルイ・コナギに対して効果が高い> ・フロアブル剤 トップガンLフロアブル500ml/10a (田植直後～15日)	○その他除草 ・藻類・表層はく離 発生時 モグトン粒剤 2kg/10a (収穫45日前まで、3回以内) モグトンジャンボ 1kg/10a (収穫45日前まで、3回以内) ・キシュウスズメノヒエ (よばい草) クリンチャー1キロ粒剤 1kg/10a 又は、稲刈り後、茎葉が出てからラウンドアップ50倍を発生している所に散布 ※除草剤散布に当たっての注意	○中期除草 ・オモダカ、ホタルイ、クログワイ (ゴヤ) 等の多年性雑草の発生時 湛水散布：サンパンチ1kg粒剤 1kg/10a、収穫60日前まで 田植後15日～ノビエ3.5葉期まで 湛水散布：レプラスジャンボ400g/10a、収穫60日前まで 田植後14日～ノビエ4葉期まで ・イネ科以外の雑草を防除する場合、幼穂形成期までとする。 粒状水中MCP 3kg/10a (湛水散布) ※平均気温20℃以上で使用。
	○湛水散布に当たっては、水の出入りを止めて、湛水状態 (3～5cm) で均一に散布し、散布後3～4日程度は湛水状態を保ち、散布後7日程度は落水、掛け流しはしない。※ (畦畔等のモグラ穴に注意!!) ○強風時の散布は避ける。 ○梅雨時など、散布後に多量の降雨が予想される場合は、使用を避ける。		

病 害 虫 防 除	発生 時期	病害 害虫	苗立枯・馬鹿苗	黄化萎縮	葉いもち・紋枯	穂いもち・もみ枯細菌	
	月	5月	6月	7月	8月	9月	
	基幹防除	フルサポート箱粒剤 50g/箱 (移植2日前～当日) デジタミネクト箱粒剤 50g/箱 (移植3日前～当日)		リンパー粒剤 3～4kg (出穂30日前まで、2回以内)	コラトップ粒剤 3～4kg (初発10日前～初発時まで、2回以内) キラップ粒剤 3kg/10a (収穫14日前まで、2回以内) ※出穂10日前～出穂期にかけて散布適期 又は、 スタークル粒剤 3kg/10a (収穫7日前まで、3回以内) ※出穂後7日～10日以内に散布適期	キラップ粒剤 3kg/10a (収穫14日前まで、2回以内) ※出穂10日前～出穂期にかけて散布適期 又は、 スタークル粒剤 3kg/10a (収穫7日前まで、3回以内) ※出穂後7日～10日以内に散布適期	
	補完防除	○本田初期 ・イネミズゾウムシ・イネゾウムシ トレボン粒剤 2～3kg/10a (収穫21日前まで、3回以内) ・ジャンボタニシ ジャンボたにくん 1～2kg/10a 移植後、収穫60日前まで2回以内 ・黄化萎縮病 ※降雨により稲が冠水し、その時水温が18～20℃の時に感染する。 ●冠水を避けるよう排水に努める。周辺のイネ科雑草を除草する	○本田中後期 ・いもち病 コラトップ粒剤 3～4kg/10a (出穂30日前～5日前まで、2回以内) ・紋枯病 ピームソル 1,000倍 (収穫7日前まで、3回以内) バリダシン液剤 5 1,000倍 (収穫14日前まで、5回以内)	・カメムシ類・コブノメイガ・ウンカ類 トレボン乳剤 1,000～2,000倍 (収穫14日前まで、3回以内) ・コブノメイガ・イネツトムシ・ウンカ類・ツマグロヨコバイ パダンバッサ粒剤 3～4kg/10a (収穫30日前まで、5回以内) 又は、 パダン粒剤 3～4kg/10a (収穫30日前まで、6回以内) ※パダンバッサ粒剤、パダン粒剤に関しては総使用回数6回以内まで	☆環境にやさしい農業を進めましょう！ 農薬の空容器・不要農薬は、農協が別途案内する回収日に出しましょう。 (11月に予定)		

<農薬・肥料等の散布時は、隣接圃場・近隣住民に配慮し、行いましょう。>

農薬散布の飛散に注意